

簡単な整備・車のお手入れ

日常点検	9-2
エンジンフード（ボンネット）	9-3
エンジンオイルの補給	9-4
ウォッシャー液の点検・補給	9-5
バッテリー液の点検・補充	9-5
タイヤメンテナンス	9-5
クリーンエアフィルターの交換のしかた	9-6
内装品のお手入れ	9-7
外装品のお手入れ	9-8
環境保護のために守っていただきたいこと	9-11

日常点検

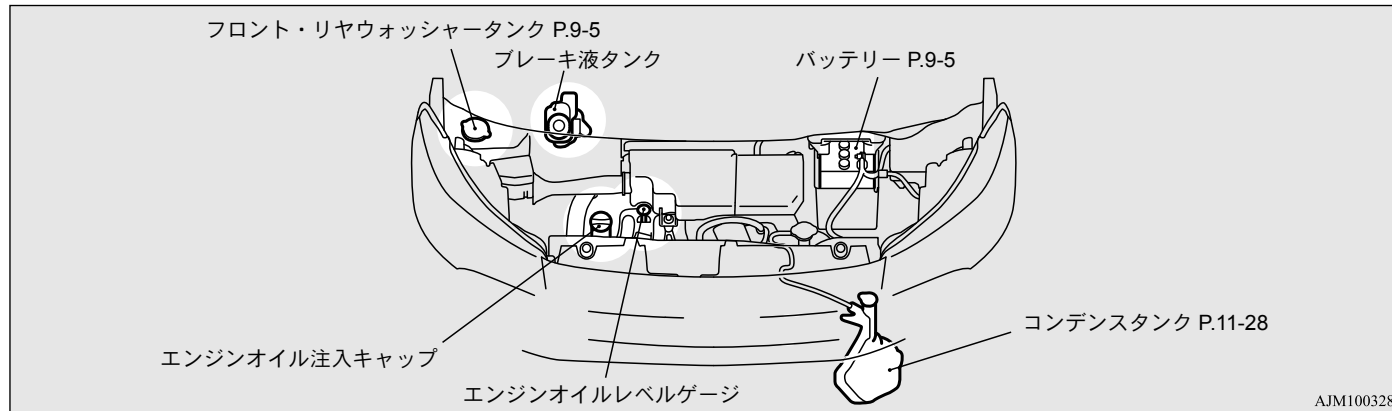
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。事故や故障を未然に防ぐため必ず実施してください。

- 日常点検整備は、長距離を走行するときや、洗車、給油時などにお客様自身で行う点検整備です。
詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので併せてお読みください。

- つぎのような点に気付いたら、販売会社で点検を受けてください。
 - ・いつもと違う音や臭いや振動がするとき
 - ・ブレーキ液が不足しているとき
 - ・地面に油の漏れたあとが残っているとき
 - ・コンデンスタンク内に冷却水がないとき

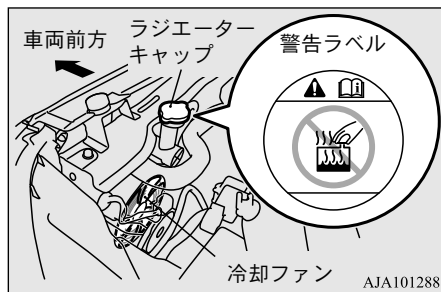
警告

- エンジン回転中はエンジンルームに手を入れないでください。手や衣服がドライブベルトなどに巻き込まれるおそれがあります。
- エンジンルーム内の部品には高温になるものがあります。やけどをするおそれがありますので、各部が十分冷えてから点検してください。



⚠ 警告

- 冷却ファンはエンジンが回転していなくても自動的に回り出すことがあります。エンジンルーム内で作業する場合は、安全のためにエンジンスイッチを LOCK または電源モードを OFF にしてください。
- 通常はラジエーターキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっているため、冷却水の温度が高いときにキャップを外すと、蒸気や熱湯が噴き出し、やけどをするおそれがあります。



エンジンフード（ボンネット）

J01204001042

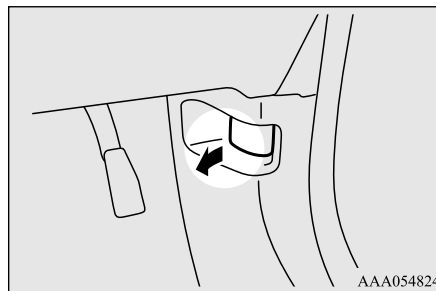
開けるときは

1. ワイパーアームが立っているときはワイパーアームを倒します。

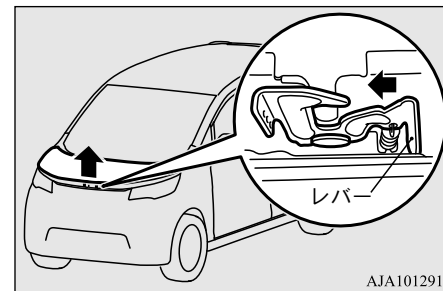
📖 アドバイス

- ワイパーアームが立った状態でエンジンフードを開けるとエンジンフードに傷がつくおそれがあります。

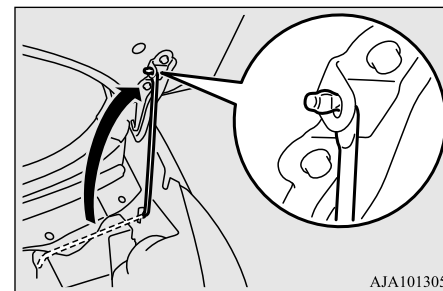
2. 計器盤右下にあるレバーを引くとエンジンフードが少し浮き上がります。



3. エンジンフードのすき間に手を入れ、前端中央部のレバーを左へ押しながらエンジンフードを持ち上げます。



4. 支持棒をエンジンフードの穴に差し込みエンジンフードを確実に固定します。

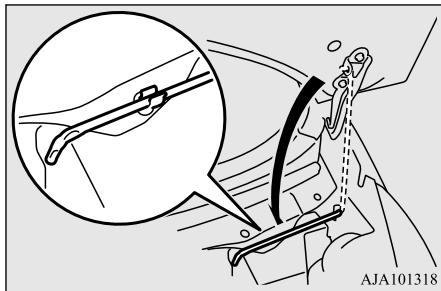


⚠ 注意

- 風の強いときにエンジンフードを開けていると、風にあおられて支持棒が外れることがあります。特に風の強いときはご注意ください。
- 支持棒は必ず所定の穴に差し込んでください。所定以外の箇所に掛けると支持棒が外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

閉めるときは

1. エンジンフードを支えながら支持棒を穴から外してクリップに固定します。



2. エンジンフードを少し持ち上げた位置（約 20cm）から離します。

⚠ 注意

- 手や物をはさまないように注意してください。

3. エンジンフードが完全に閉じていることを確認します。

⚠ 注意

- 走行前に必ずエンジンフードが確実に閉じていることを確認してください。完全に閉じていないまま走行するとエンジンフードが開くおそれがあります。

📖 アドバイス

- エンジンフードを手で強く押しつけないでください。力のかけぐあいや場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。

エンジンオイルの補給

J01200101797

エンジンオイルが不足するとエンジンの不調や破損につながるおそれがあります。

エンジンオイル量を点検しオイルが不足している場合は、純正エンジンオイルまたはオイル缶に ILSAC 認証マークの入っ

たエンジンオイルを補給してください。なお、エンジンオイルの点検、補給方法、交換時期についての詳細は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
→ 「エンジンオイル注入キャップ、エンジンオイルレベルゲージ」 P.9-2
→ 「オイル類の量と種類」 P.12-3

ILSAC 認証マーク



AAA005581

📖 アドバイス

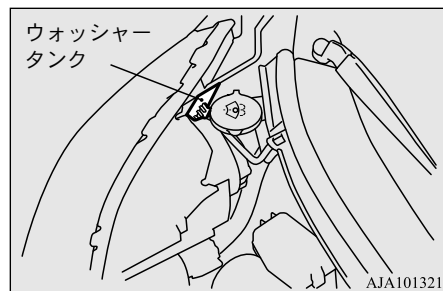
- エンジンオイルは通常走行でも、走行状況に応じて消耗します。オイル量を点検しオイルが不足している場合は、補給してください。
- エンジンの性能や寿命、始動性に大きく影響しますので、補給するときは必ず指定のオイルおよび粘度のものを使用してください。

ウオッシャー液の点検・補給

J01200201798

フロント・リヤ共用

タンク内の液面の位置で液量を点検します。



ウオッシャー液が不足している場合は、純正ウオッシャー液を気温に適した濃度で補給してください。

<希釈割合の目安>

凍結温度	希釈割合
-7℃程度	原液 1 に水 2
-13℃程度	原液 1 に水 1
-38℃程度	原液のまま

⚠ 注意

- 冬期は、ウオッシャー液を薄めすぎると液がウインドウガラスに凍りついてしまうことがあります。

バッテリー液の点検・補充

J01202201125

バッテリー液を点検し、液が不足している場合は補給してください。

📖 アドバイス

- 点検および補給方法については別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

タイヤメンテナンス

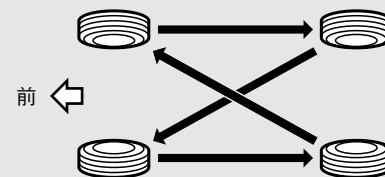
J01202100198

タイヤローテーション

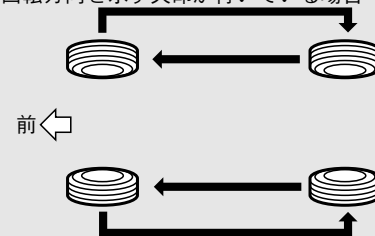
J01202401286

タイヤの摩耗を均一にして寿命を延ばすため、タイヤローテーションを 5,000km 走行ごとに行ってください。

回転方向を示す矢印が付いていない場合

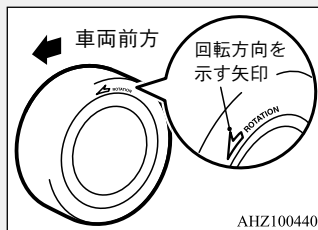


回転方向を示す矢印が付いている場合



⚠ 注意

- タイヤに回転方向を示す矢印が付いているときは、4 輪で前後ローテーションを行ってください。
タイヤを取り付けるときは車両前進時の回転方向と矢印の向きが同じになるように取り付けてください。矢印の向きが異なるとタイヤの性能が十分に活かせません。



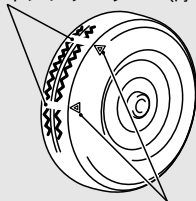
- 種類の異なったタイヤを混せて使用することは、安全走行に悪影響をおよぼしますので避けてください。

タイヤの摩耗

J01202500134

ウェアインジケーター（溝の深さ 1.6mm 以下）が現れたら、スリップしやすくなり危険ですのでタイヤを交換してください。

ウェアインジケーター（摩耗限度表示）



ウェアインジケーター位置を示すマーク

AAA055746

📖 アドバイス

- ウェアインジケーターのマークや位置は、タイヤメーカーによって異なります。

タイヤ空気圧の点検・調整

J01202601190

タイヤの空気圧は定期的に点検し、必ず規定の空気圧に調整してください。
→「タイヤの空気圧」P.12-7

⚠ 警告

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、タイヤが偏摩耗したり、車の安定性や操縦性を確保できなくなるおそれがあります。また、バースト（破裂）するなど重大な事故につながるおそれがあります。

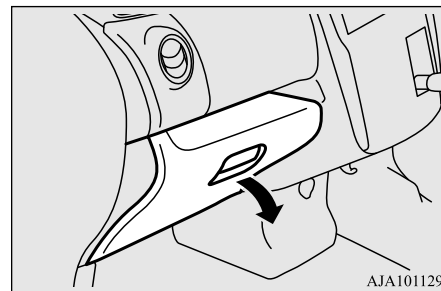
📖 アドバイス

- 点検方法は別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
- 規定の空気圧は運転席ドアを開けたボデー側のラベルにも表示しています。

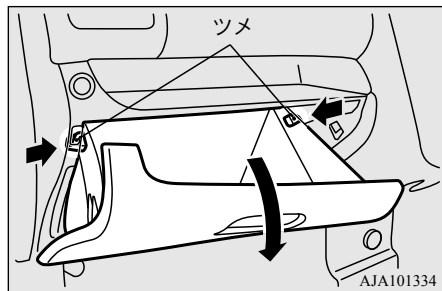
クリーンエアフィルターの交換のしかた

J01202001497

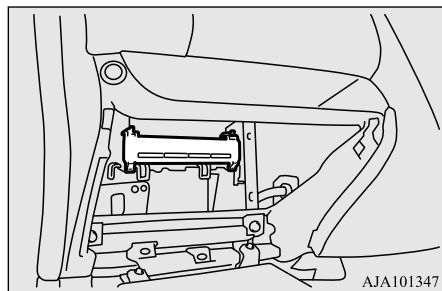
1. グローブボックスを開けます。



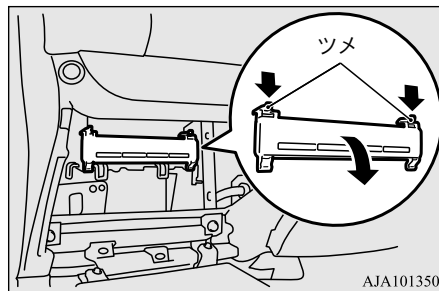
2. グローブボックスの側面を押しながら、左右のツメを外し、グローブボックスを下げます。



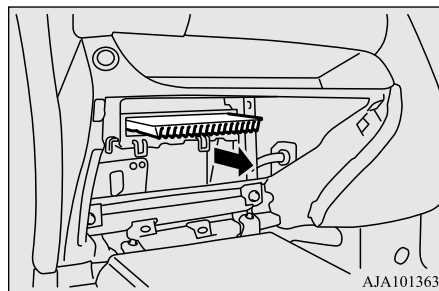
3. グローブボックスの奥にクリーンエアフィルターがあります。



4. カバー左右にあるツメを下に押しながら手前に引いて、カバーを外します。



5. クリーンエアフィルターを取り出して新品と交換します。



6. 元に戻すときは、取り外したときと逆の手順で取り付けます。

内装品のお手入れ

J01200602076

1. 電気掃除機などでほこりを取り除きます。
2. ガーゼなどの柔らかい布に、中性洗剤を薄めた水溶液を含ませて、軽くふき取ります。
3. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤をきれいにふき取ります。
4. 水分をよくふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。

⚠ 注意

- シリコンやワックスを含むクリーナーや保護剤を使用しないでください。変色の原因になったり、インストルメントパネルなどに使用すると使用箇所がウィンドウガラスに映り込み、視界の妨げになるおそれがあります。また、各種スイッチなどに付着すると電装品の故障につながるおそれがあります。
- シートの下など、見えにくい場所や狭い場所のお手入れをするときは、手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。

アドバイス

- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ、割れの原因になります。
- また、各種クリーナー類にはこれらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- ブラシ、合成繊維類、固い布、乾いた布やウェットティッシュは使用しないでください。使用すると表面を傷つけたり、変色するおそれがあります。
- 液体芳香剤は、こぼれないよう容器を確実に固定してください。
- また、インストルメントパネルの上やランプ類、メーターの近くには置かないでください。
- 含まれる成分によって樹脂部品や布材の変色、ひび割れをおこすおそれがあります。
- ガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう電熱線に沿って柔らかい布でふいてください。

本皮

タイプ別装備

J01202701188

1. ガーゼなどの柔らかい布に、ウール用中性洗剤を薄めた水溶液を含ませて、汚れをふき取ります。
2. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤をふき取ります。

3. 乾いた柔らかい布で水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- 水をこぼしたり、雨などでぬれたときは、乾いた柔らかい布で早めに水分をふき取ってください。
- ナイロンブラシ、合成繊維類で強くこすると表面を傷つけるおそれがあります。
- 本革の汚れはカビなどの原因となります。油污れなどは、早めに落としてください。
- 直射日光に長時間さらすと表面が日焼けしたり、硬くなって縮むことがあります。できるだけ日陰に駐車してください。

外装品のお手入れ

J01200701269

走行後のお手入れ

J01204100017

お車を美しく保つために、走行後は塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としてください。

つぎのような汚れは、そのままにしておきますと、腐食、変色、しみになるおそれがありますので、できるだけ早く洗車してください。

- 海水や道路凍結防止剤など

- 工場のばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質（酸、アルカリ、コーラタールなど）など
- 鳥のふん、虫の死がい、樹液、花粉など

⚠ 注意

- 下まわりやホイールを洗うときは、厚手のゴム手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。

洗車のしかた

J01202801714

1. 水をかけながら、車体の下まわりを洗います。
2. 車体上部から水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。
3. 水洗いで落ちにくい汚れには、中性洗剤を使用してください。
- その後は、中性洗剤を水で完全に洗い落とします。
4. 柔らかい布またはセーム皮で、塗装面にはん点が残らないよう水分をふき取ります。

⚠ 注意

- エンジンルーム内には水をかけないでください。車体の下まわりを洗車するときも、エンジンルーム内に水が入らないようにしてください。エンジン始動不良などの原因になります。
- 洗車後は、低速で走行しながら数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。ぬれたままにしておくでブレーキの効きが悪くなったり、凍結やさびによってブレーキが固着し、走行できなくなることがあります。

📖 アドバイス

- 自動洗車機を使用すると塗装面にブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗淨機（コイン洗車機など）は機種によって高温、高圧のものが有ります。車体樹脂部品の熱変形、破損、接着式マーク類のはがれ、室内への水侵入などのおそれがありますので、つぎのことをお守りください。
 - ・洗車ノズルと車体との距離を十分離す。（約 70cm 以上）
 - ・ドアガラスまわりを洗うときは、洗車ノズルをガラス面に垂直に向け、洗車ノズルとガラスとの距離を十分離す。（約 70cm 以上）

📖 アドバイス

- 自動洗車機を使用するときは、部品が破損したり、車両を傷つけるおそれがありますので、アンテナ（ロッドアンテナ）およびドアミラーを格納してください。また、ルーフアンテナを取り外してください。
- リヤスポイラー付き車は、使用する前に必ず係員にご相談ください。係員のいないコイン洗車機などは、操作要領にしたがって洗車してください。

ワックスを使ったお手入れ

J01202901470

月に 1~2 回または、水をはじかなくなるときにかけます。ワックスがけは、洗車後や塗装面が体温以下のときに直射日光を避けて行ってください。ワックスのかけ方はワックスの説明書にしたがってください。

📖 アドバイス

- 純正ワックスの使用をおすすめします。

ウインドウガラスのお手入れ

J01203001276

ワイパーのふきが悪くなったときは、ウインドウガラス洗淨剤（ガラスクリーナーなど）で清掃してください。

📖 アドバイス

- 純正ウインドウガラス洗淨剤の使用をおすすめします。
- ガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう電熱線に沿って柔らかい布でふいてください。

スーパーUV カット断熱グリーンガラスのお手入れ

タイプ別装備

J01204400023

フロントドアガラスの室内側に UV カットコーティングがしてあります。フロントドアガラスが汚れているときは、水または温水を含ませた柔らかい布で早めに汚れをふきとってください。

📖 アドバイス

- 汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をひんばんに行わないでください。ガラスに傷がつくおそれがあります。
- コンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しないでください。コーティングがはがれるおそれがあります。

ワイパーのお手入れ

J01201101114

ワイパーゴムに異物が付着していたり、摩耗しているとふきが悪くなりますので、つぎのように処置してください。

- 異物が付着しているときは、水を含ませた柔らかい布でワイパーゴムを清掃してください。
- ワイパーゴムが摩耗しているときは、早めにワイパーゴムを交換してください。

9 アドバイス

- ワイパーゴムの交換については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

番号灯のお手入れ

J01203300012

番号灯の内側が汚れたり、水がたまった場合は、まず車体から番号灯を外し、つぎにバルブを外してからレンズを水洗いしてください。

→「番号灯」P.11-44

アドバイス

- レンズの表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり劣化を早める原因となります。
- 番号灯を外すときは、車体を傷つけないよう十分注意してください。

樹脂部品のお手入れ

J01201500209

スポンジまたはセーム皮で清掃します。黒色や灰色系統で表面がざらざらしている部分（バンパーやモールディングなど）およびランプ類にワックスが付着すると白くなることがあります。ワックスが付着したときは、温水を用い柔らかい布またはセーム皮などできれいにふき取ってください。

アドバイス

- たわしなどの硬いものは、表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。

アドバイス

- ガソリン、軽油、ブレーキ液、エンジンオイル、グリース、塗装用シンナー、硫酸（バッテリー液）を付着させると、変色、しみ、ひび割れの原因になりますので、絶対に避けてください。万一、付着したときは、すみやかに中性洗剤の水溶液を用い柔らかい布またはセーム皮などでふき取った後、多量の水で洗い流してください。

アルミホイールのお手入れ

タイプ別装備

J01201601223

1. 水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。
2. 水洗いで落ちにくい汚れには、中性洗剤を使用してください。洗車後は、中性洗剤を水で洗い落とします。
3. 柔らかい布またはセーム皮で水分をふき取ります。

アドバイス

- ブラシなどの硬いものは、ホイール表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- コンパウンド（研磨剤）入りのクリーナーや、酸性およびアルカリ性のクリーナーは使用しないでください。ホイール塗装表面のはがれ、変色、しみの原因になります。

アドバイス

- スチームクリーナーなどで直接熱湯をかけないでください。
- 海水や道路凍結防止剤などが付着したときは、腐食するおそれがありますので早めに洗い落としてください。

環境保護のために守っていただきたいこと

J01204200018

廃棄物を処理するときは

J01204301029

- 環境保護のためにつぎのことをお守りください。
 - ・ 使用済みのバッテリーやタイヤは、新品を購入した販売店に処分を依頼してください。
 - ・ エンジンオイルや冷却水を交換する場合は、販売会社にご相談ください。

